様　式　Ｃ－１９、Ｆ－１９－１、Ｚ－１９　（共通）

科学研究費助成事業　　研究成果報告書

平成 ３０ 年　 ６ 月　 ４ 日現在

機関番号：１２６０１
研究種目：基盤研究(C)（一般）
研究期間：2015～2017
課題番号：１５Ｋ０２８１３

研究課題名（和文）東アジア諸王室における「后位」比較史研究に関する国際的研究基盤の形成

研究課題名（英文）Collaborative Research for Comparative historical Study on Rituals for Queen consort Positions of East Asian Royal Families

研究代表者
伴瀬　明美（BANSE, Akemi）

東京大学・史料編纂所・准教授

研究者番号：９０２９２７９７

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費）　　3,700,000円

研究成果の概要（和文）：前近代東アジア地域（中国・朝鮮・日本）諸王朝に共通して見られる「后位」（皇后・皇太后・太皇太后・王后など）に関わる儀礼や諸制度について、各国の基幹的儀礼書を比較しつつ解読するという堅実な手法に基づく基礎研究を行い、それを通じて、東アジアの各時代・地域における中国礼制の〈受容〉と〈独自の発展〉の多彩な様相を明らかにした。
　また、后位・後宮等に関する日本史・中国史・朝鮮史の文献目録（外国語文献を含む）及びその解説（英訳あり）、主要文献の要約や翻訳を作成し、儀礼書の訳註と共に研究成果報告書に収載して刊行し（文献目録はweb公開予定）、東アジア研究の研究基盤として提供した。

研究成果の概要（英文）：Under the influence of the traditional Chinese system of protocol, the queen-consort position as rank developed among the East Asian (Chinese, Korean, and Japanese) royal families.
Building on the foundation of available comprehensive basic research regarding rituals related to the queen-consort position and the various organizational modes in which the position was realized, this project analyzed factors related to the positioning of the queen-consort within each regime. It also examined the shared and distinctive features of the rank's social positioning, along with the historical background shaping these factors. Through this attempt, this project has elucidated how neighboring countries adopted and developed traditional Chinese protocol and legal systems. The research resources created during the process of this project were provided in print and (partially) online form. These include the bibliography along with commentaries on it and annotated translations of ritual materials.

研究分野：日本古代中世史

キーワード：皇后　儀礼　王妃　后位　礼制　皇太后　後宮　東アジア

１．研究開始当初の背景

研究代表者である伴瀬は日本古代・中世天皇家の存在形態を研究テーマにしており、中世を研究する前提として古代の研究は必須であるため、唐令を継受した日本令制における后妃・後宮に関わる制度が平安時代から院政時代にかけてどのように変化するかといった研究もおこなってきた。その過程で日本における后位の特殊性に気づき、逸脱ともいうべき特殊性が許容されえた歴史的背景を考えるなかで、中国礼制のもとで后位という共通した身位をもつ東アジア地域（中国・朝鮮）の諸王室における后位がどのようなものであったかに興味をひかれ、当該地域の比較史という着想を得た。

日本史研究においては、制度史を中心に后位に関する研究が早くから着手され、多種多様な視角からの研究が蓄積されてきた。しかしながら、現段階の后位研究のほとんどは、日本が独自の儀礼のあり方を発展させた後の 9、10 世紀以後の時代を対象としており、后位をめぐる中国礼制の継受に関わる研究、中国・朝鮮との比較史的視角からの研究は、中国・朝鮮の儀礼書の解読という研究上の障壁もあり、ほとんど行われていなかった。

中国史では、中国・台湾の研究者による制度史研究や、史上著名な后妃についての個別の人物研究は行われてきたものの、后位そのもの、后位をめぐる礼的秩序を対象とした研究は、連携研究者保科季子による漢代皇后に関する研究を嚆矢とし、近年、明代后妃を中心に、本格的に着手された段階であった。

朝鮮史においても、近年、政治史的な視点からの后妃研究や朝鮮王朝時代の王室を中心に后妃のあり方や儀礼を解説した研究は散見されるが、多くはその概要をなぞるものであり、后位に関わる儀礼・制度について史料を厳密に読みこんだ実証研究は研究分担者豊島悠果によって緒についたところであった。

２．研究の目的

前近代東アジア（中国・朝鮮・日本）に共通してみられる「后位」にかかわる儀礼・諸制度の総合的な基礎研究を通じて、東アジア諸王室における王の嫡妻、王の母・祖母の国制上の位置づけや社会的地位の独自性と共通性を分析し、前近代東アジアの国際秩序形成において重要な要素であった中国礼制の各地域・時代における〈受容〉と〈独自の発展〉という両側面のあり方を解明する。

また、基礎研究の過程で作成する文献目録の他言語版解説、各国儀礼書の精度の高い訳注を研究成果と共に多元的で公開し、東アジア研究の国際的研究資源として提供する。

３．研究の方法

本研究のみならず、今後の研究においても共通の基盤となりうる研究資源の作成にまず重点をおき、１）中国史・朝鮮史・日本史それぞれにおける后位研究の研究動向（海外文献も含む）を相互参照できる文献目録と解説（多言語による）を作成し、２）中国・朝鮮・日本の儀礼書・儀式書のうち后位に関わる儀礼について厳密な解読を行い、訳注を作成する。３）1)・2)の成果を土台として、各地域・諸王室における后位の独自性と共通性を明確にし、その歴史的背景、后位をめぐる中国礼制の〈受容〉と〈独自の発展〉の両側面について研究を進め、４）1)～3)の成果を東アジア史研究の共有資源とし、国内外の東アジア史研究者に還元するため、出版物・ウェブサイト・シンポジウム開催等の多元的方法によって公開・発信する（上記の１）～４）は次項に対応する）。

また、本研究においては、中国史研究者が中国史分野を、朝鮮史研究者が朝鮮史分野を研究して成果を持ち寄る分業的研究ではなく、研究資源の作成段階から領域の枠を越えて共に研究に参画する協業的な研究体制をとり、これによって、表面的な比較史にとどまらない研究の深化を目指す。

４．研究成果

１）について

日本史・中国史・朝鮮史それぞれについて后位・后妃・後宮などに関する文献を外国語文献も含めて収集し、一文献ごとにキーワードを切り出し、外国語文献についてはタイトル・副題・キーワードの日本語訳を付して目録に登録した(日本史 686 件､中国史 262 件、朝鮮史 168 件)。また、各文献目録に解説とその英訳を付し、各分野の主要文献の要約を作成した。

２）について

儀礼における直接の継受関係が明確であり、それぞれの国の王室・后妃関連儀礼の基礎となった儀礼書である『大唐開元礼』（唐代）と『国朝五礼儀』（朝鮮王朝）を取り上げ、后位の根本に関わる立后（立妃）儀礼のうち、婚姻に伴い皇后・王妃を冊立する儀礼「納后（納妃）」を定める『大唐開元礼』巻 93「嘉礼／納后」、『国朝五礼儀』巻 3「嘉礼／納妃儀」の解読を行い、註釈を作成した。

３）について

公開研究会「東アジア后位比較史研究会」における討論、および海外での史跡・史料調査や韓国・台湾の現地研究者との研究をふまえ、個人研究を進めた。

a.東アジア后位比較史研究会

科研参画研究者による勉強会として発足

したが、本科研のテーマに関心を寄せる研究者に参加を呼びかけ、公開研究会とした。地域・時代ともに様々な専攻の研究者のべ 200 人が参加し、遠方からの招聘も含めた報告者による、東アジア諸王朝における后位・后妃・礼制等に関わる多様なテーマの研究報告をめぐって討論が行われ、本研究における比較史研究を推進するうえで重要な場となった。２）の『大唐開元礼』・『国朝五礼儀』の註釈作成に関する議論も本研究会において行った。以下、日時：報告者：テーマを記す。

第 1 回　2015 年 6 月 21 日(日)：伴瀬明美：日本の「后位」の変遷

第 2 回　2015 年 8 月 31 日(日)：保科季子：中国后妃制度の沿革

第 3 回　2015 年 11 月 29 日（日）：豊島悠果：朝鮮の后妃

第 4 回　2015 年 12 月 13 日（日）：稲田奈津子：儀式史料の比較分析による「后位」研究の可能性

第 5 回　2016 年 2 月 13 日(土)：伴瀬明美：〈一帝二后〉の始まりをめぐって

第 6 回　2016 年 4 月 23 日（土）：陳　蕾：新羅善徳・真徳女王の即位条件に関する考察

第 7 回　2016 年 5 月 22 日（日）：稲田奈津子：納后儀礼をめぐる中朝比較研究―臨軒命使・納采を中心に―　訳注『大唐開元礼』巻九十三　嘉礼　納后上　臨軒命使、『国朝五礼儀』巻三　嘉礼　納妃儀　納采

第 8 回　2016 年 6 月 26 日(日)：垣中健志：家政機関からみた古代日本の皇后制

第 9 回　2016 年 7 月 31 日(日)：牧　飛鳥：納后儀礼における納采・采擇　―唐・宋・明・朝―　訳注『大唐開元礼』納采・『国朝五礼記儀』妃氏第受納采

第 10 回　2016 年 9 月４日(日)：野中　敬：郭太后　―曹魏王朝後期政治史に関する一考察―

第 11 回　2016 年 10 月 16 日（日）：安永知晃：漢代における皇后・皇太后の地位―「漢家の制」を中心として―

第 12 回　2016 年 11 月 27 日（日）：五味知子：〔訳注〕『大唐開元礼』巻九三嘉礼　納后上　問名

第 13 回　2017 年１月 29 日（日）：前田尚美：明代の皇后・皇太后の政治的位相

第 14 回　2017 年 2 月 19 日（日）：五味知子：〔訳注〕『大唐開元礼』巻九三嘉礼　納后上　納吉／稲田奈津子：殯宮の立地と葬地―艇止山遺跡の評価をめぐって―

第 15 回　2017 年 5 月 21 日（日）：高松百香：〈女院〉の成立と展開

第 16 回　2017 年 6 月 25 日（日）：猪俣貴幸：〔訳注〕『大唐開元礼』巻九十三嘉礼　納后上　納徵、『国朝五礼儀』納徵・妃宇治第受納徵

第 17 回　2017 年 8 月 7 日(月)：藤野月子：和蕃公主の降嫁

第 18 回　2017 年９月 23 日（土）：猪俣貴幸：〔訳注〕『大唐開元礼』巻九十三嘉礼　納后上　告期・冊后、『国朝五礼儀』告期・妃氏第受告期／伴瀬明美：〔訳注〕『国朝五礼儀』冊妃

第 19 回　2017 年 11 月 23 日（日）：伴瀬明美：〔訳注〕『国朝五礼儀』妃氏第受冊妃／〔参考報告〕天皇・后の女房について

第 20 回　2018 年 2 月 18 日（日）：猪俣貴幸：后妃廟の成立と展開／保科季子：漢代における皇后宮・皇太后宮の成立--居住宮と官属

b.海外での史跡・史料調査、研究交流

2015 年 7 月：中央研究院歴史語言研究所（台湾）での史料調査（保科季子）。

2016 年 8 月 15 日～18 日：韓国での史跡・史料調査（ソウル市内にて成均館大学校李炫珠氏と研究交流、益山市内にて国立弥勒寺址遺物展示館・弥勒寺寺址・王宮里遺跡展示館・王宮里遺跡・帝釈寺址・同寺廃棄物廃棄所遺構・双陵などを調査・見学、国立弥勒寺址遺物展示館長李炳鎬氏らと研究交流、ソウル市内にて貞陵・景福宮の調査・見学、ソウル大学校奎章閣韓国学研究院にて梁晋碩氏等と研究交流）

2016 年 10 月 28 日～31 日：韓国での史跡・研究状況調査（ソウル市内にて景福宮・昌徳宮・成均館大学校構内史跡を見学、同大李炫珠氏と研究交流、ソウル女子大学校で開催された第 59 回全国歴史学大会に参加し韓国女性史学会・新羅史学会等の研究報告を聴講。慶州市にて芬皇寺、発掘作業中の皇龍寺址など新羅時代に創建由来をもつ仏教史跡、新羅時代の王宮周辺の空間配置、武烈王陵などを調査・見学）

４）について

研究集会の開催、国際学会への参加等を通して、研究成果の公開・発信に努めた。

①国際研究集会「東アジアの皇后儀礼の比較研究」

2017 年 4 月 2 日（日）史料編纂所

報告者：鄭雅如（中央研究院歴史語言研究所）

タイトル：北魏的皇后、皇太后制度

小報告：豊島悠果・稲田奈津子・伴瀬明美

コメント：保科季子

報告通訳：李　航　　討論通訳：陳　蕾

参加者 22 名（台湾から２名、関西から４名の参加を含む）

鄭雅如氏の報告では、漢民族とは異なる習俗をもつ鮮卑族国家における皇后・皇太后について、その展開や性格が論じられた。鮮卑族の婚姻習俗では諸妻間に嫡庶の区別が無く、継帝生母が皇后に追封され、諡号奉呈や太廟配饗の対象とされた一方で、継帝生母は賜死とされる習慣のため皇太后は不在であったが、やがて保母が母親代わりとして皇太后に立てられ、母権を重視する鮮卑の習俗を

背景に、皇太后が後宮や朝廷において権力を握るようになったとされる。報告をもとに活発な質疑応答がおこなわれた。特に、これまで東アジア后位比較史研究会を重ねる中で、日本の后（母后）の在り方について、北魏など北方遊牧民族の国家のそれに近いのではないかとの指摘がなされていたが、鄭報告により相似点が具体的に示され、また「中国礼制」自体の形成過程の解明という重要な論点が提示されるなど、大きな収穫が得られた。

②國際學術研討會「世界史中的中華婦女」
2017 年 7 月 11 日～14 日中央研究院近代史研究所档案館（台湾）で開催された中央研究院近代史研究所主催の國際學術研討會「世界史中的中華婦女」にパネル・個人で応募し、審査を経て研究参画者全員が参加した。参加形態・報告内容は下段のとおり。

とくに本科研として参加したパネルセッション「性別・禮制與國族：中國皇后禮儀與東亞世界」は、近現代史のセッションが多いなかでほぼ唯一の古代・中世を対象としたパネルであり、かつ総合テーマである「中華婦女」とは異なりその周辺世界における皇后のあり方をテーマとしたことが関心を集めたためか、中央研究院歴史語言研究所の李貞徳氏ほか著名なジェンダー史研究者たちの聴講を得て、活発な質疑応答が行われた。

漢民族と異なる鮮卑族国家における皇后・皇太后の在り方とその特質を論じた鄭報告に対しては、鮮卑族の尊母習俗との関係如何、日本古代における皇后制の成立への中国礼制の影響を論じた稲田報告に対しては、先蚕・籍田が日本に定着しなかった背景、日本における立后儀式の整備と確立から日本皇后の特徴を論じた伴瀬報告に対しては、日本の皇后に「天下為母」概念が見られない点に関してとくに関心が寄せられた。セッション終了後も個別に質問を受けたり、それぞれ研究関心の近い研究者との研究交流をはかるなど、学術交流という点でも大きな収穫があった。

2017 年 7 月 12 日　第 9 セッション
「性別・禮制與國族：中國皇后禮儀與東亞世界」
チェア兼ディスカッサント：保科季子
報告：
鄭雅如(中央研究院歴史語言研究所)「鮮卑舊俗與北魏前期的皇后・皇太后制度」
稲田奈津子「日本古代皇后制度的形成與中國禮制」
伴瀬明美「日本“皇后”的特質―以立后儀式為中心」
豊島悠果「Political Authority of Queen Consorts and Queen Dowgers during the Koryõ Period」
※豊島は体調不良のため代読参加
2017 年 7 月 13 日　第 17 セッション「女性與家庭」として
報告：五味知子「明清時代之官媒制度與女性觀」

③１）２）の成果および３）４）の概要を、2018 年 3 月に東京大学史料編纂所研究報告 2017-5『東アジア諸王室における「后位」比較史研究に関する国際的研究基盤の形成』として発刊した。（文献目録・解説は補訂の上 2018 年度内にウェブ上で公開予定）

５．主な発表論文等
（研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線）

〔雑誌論文〕（計　9　件）
①伴瀬明美、日本“皇后”的特質―以立后儀式為中心、中央研究院歴史語言研究所『古今論衡』、査読有、掲載号未定（掲載決定）、2018、未定
②稲田奈津子、日本古代皇后制度形成與中國禮制、中央研究院歴史語言研究所『古今論衡』、査読有、掲載号未定（掲載決定）、2018、未定
③稲田奈津子、殯宮の立地と葬地―艇止山遺跡の評価をめぐって―、東京大学日本史学研究室紀要、査読無、68-2 巻、2017、1-18
④保科季子、漢代における経学講論と国家儀礼：釈奠礼の成立にむけて、東洋史研究、査読有、74-4 巻、2016、1-31
⑤伴瀬明美、日本古代・中世における家族秩序―婚姻形態と妻の役割などから、アジア遊学（ジェンダーの中国史）、査読無、191 巻、2015、236-247
⑥稲田奈津子、藤原順子のための天皇喪服議―注釈『日本三代実録』貞観十三年九月二十八日～十月七日条―、法史学研究会会報、査読有、18 巻、2015、82-102
⑦豊島悠果、『黙斎日記』にみる十六世紀朝鮮士大夫家の祖先祭祀と信仰、アジア遊学（ジェンダーの中国史）、査読無、191 巻、2015、261-273
⑧五味知子、貞節と淫蕩のあいだ―清代中国の寡婦をめぐって、アジア遊学（ジェンダーの中国史）、査読無、2015、174-185
⑨保科季子、漢代の古文尚書学：「今文太誓」と『古文尚書』、歴史学研究、査読有、939 巻、2015、13-23

〔学会発表〕（計　12　件）
①伴瀬明美、日本"皇后"的特質―以立后儀式為中心、國際學術研討會「世界史中的中華婦女」（国際学会）、2017
②伴瀬明美、天皇・后の女房について―『国朝五礼儀』妃氏第受冊妃を読むにあたり、東アジア后位比較史研究会、2017
③伴瀬明美、中世前期貴族社会における女房―「男女の栄」―、「日本列島社会の歴史とジェンダー」研究会、2017
④稲田奈津子、日本古代皇后制度的形成與中

國禮制、國際學術研討會「世界史中的中華婦女」(国際学会)、2017
⑤豊島悠果、Political Authority of Queen Consorts and Queen Dowgers during the Koryõ Period、國際學術研討會「世界史中的中華婦女」(国際学会)、2017
⑥稲田奈津子、殯宮の立地と葬地―艇止山遺跡の評価をめぐって―、新羅史研究会、2017
⑦伴瀬明美、〈一帝二后〉の始まりをめぐって、東アジア后位比較史研究会、2016
⑧稲田奈津子、納后儀礼をめぐる中朝比較研究―臨軒命使・納采を中心に、東アジア后位比較史研究会、2016
⑨伴瀬明美、日本の「后位」の変遷、東アジア后位比較史研究会、2015、
⑩豊島悠果、朝鮮の后妃、東アジア后位比較史研究会、2015
⑪稲田奈津子、儀式史料の比較分析による「后位」研究の可能性、東アジア后位比較史研究会、2015
⑫保科季子、中国后妃制度の沿革、東アジア后位比較史研究会、2015

〔図書〕(計　4　件)
①稲田奈津子、吉川弘文館、律令制と古代国家、2018、442-470
②稲田奈津子、社会科学文献出版社、歴代令考、2017、121-144
③豊島悠果、汲古書院、高麗王朝の儀礼と中国、2017、352
④伴瀬明美、山川出版社、摂関期の国家と社会、2016、32-59

〔産業財産権〕

○出願状況(計　0　件)

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
出願年月日：
国内外の別：

○取得状況(計　0　件)

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
取得年月日：
国内外の別：

〔その他〕
ホームページ等

６．研究組織

(1)研究代表者
伴瀬　明美(BANSE, Akemi)
東京大学・史料編纂所・准教授
研究者番号：90292797

(2)研究分担者
豊島　悠果(TOYOSHIMA, Yuka)
神田外語大学・外国語学部・准教授
研究者番号：10597727

稲田　奈津子(INADA, Natsuko)
東京大学・史料編纂所・助教
研究者番号：60376639

(3)連携研究者
保科　季子(HOSHINA, Sueko)
なし
研究者番号：90750745

五味　知子(GOMI, Tomoko)
成蹊大学・文学部・助教
研究者番号：20751100

(4)研究協力者
(　　)